vinetur

ガリシア州、Martín Códaxの1,860万ユーロ拡張計画を「地域利益事業」に指定

Cambadosの計画では4万7,000平方メートル超を増設し、Rías Baixasでのワイナリーの生産能力を高める。

2026年10月5日（月）



ガリシア州政府は月曜日、CambadosにあるBodegas Martín Códaxの拡張計画を「地域利益事業」に指定した。ワイナリーによると、この計画は施設の規模をブドウ生産者の生産能力に見合うものとし、スペイン有数の白ワイン産地の一つでさらなる成長を支えることを目指す。

Xuntaの閣議後に発表された情報によると、この計画の投資額は約1,860万ユーロで、ポンテベドラ県にある協同組合の施設に4万7,000平方メートル超を整備する。州政府当局者は、工事により約20人の新規雇用が生まれ、ワイナリーの操業能力が高まる見込みだと述べた。

今回の拡張は、事業の生産・運営面が中心となる。計画では、物流エリアの貯蔵スペースを拡大し、バルクワインの供給能力を高め、収穫期の醸造スペースを広げる。タンクの増設に加え、ブドウの受け入れや圧搾に使う施設も改善する。いずれも、生産者から毎年ブドウが持ち込まれる時期に最も負荷がかかる工程だ。

当局者によると、今回の工事は、組合員や提携生産者が扱う量に合わせてワイナリーのインフラを整えることを目的としている。協同組合であるMartín Códaxは、DO Rías Baixasを代表する知名度の高いブランドの一つで、とりわけアルバリーニョのワインで知られる。州政府は、施設の拡張により、同社はより多くのブドウを加工し、生産量を拡大するとともに、事業に関わる生産者の環境を改善できるとしている。

計画には、販売や来訪者向けの施設も含まれる。ワイナリーはワインツーリズムのエリアを拡張する方針で、その一環としてレストランの設置も検討している。また、オフィススペースを増やし、従業員向けの共用エリアも拡充する。

州政府は、地元のブドウ生産と深く結びつくワイナリーの拡張を、Salnés渓谷の経済開発策として位置づけた。Xuntaが公表した数字によると、Martín Códaxは332人のブドウ栽培農家で構成され、約325ヘクタールを耕作している。組合員に加え、約135人の生産者や協力者からもブドウを購入している。

現在の設備上の生産能力は8万3,400ヘクトリットル超で、拡張完了後にはさらに増える見通しだ。同社のブドウ栽培は、DO Rías Baixasのサブゾーンであるval do Salnés内の自治体に広がっている。近年は、ガリシア州内のMonterreiやRibeiroのほか、州外のBierzoでも事業を展開している。

Xuntaは、この計画を地域利益事業に指定することで、地元経済と農食品産業にとって重要な投資だと判断したことを示した。ガリシア州では、経済、社会、または地域への影響を理由に重要とみなされる計画に、この区分が適用される。州政府当局者は、投資規模、雇用増加の見込み、ブドウ生産者を支える協同組合の役割を踏まえ、Martín Códaxの計画はその基準に合致すると述べた。

州政府は、生産能力の拡大による効果はワイナリーの枠を超えるとしている。加工・貯蔵能力の拡充は、ブドウの購入増加に加え、収穫期の物流、醸造、瓶詰め、関連サービスに関わる仕事を支えると見込まれる。当局者によると、協同組合に参加する生産者だけでなく、別の契約形態でブドウを供給する生産者にも恩恵が及ぶという。

今回の承認は、スペイン各地の多くのワイナリーが、農業生産上のニーズと、宿泊・観光分野への事業拡大の両立を図る中で行われた。Martín Códaxの計画は、ブドウの供給に対応する生産能力の増強と、ワインツーリズム収入を伸ばすための来訪者向け施設の拡充という二つの目標を組み合わせている。計画に盛り込まれたレストラン案は後者にあたるが、当局者は確定した最終計画ではなく、導入の可能性があるサービスとして説明した。

ワイナリーの所在地であるCambadosは、Rías Baixasを代表する町の一つで、長年にわたりアルバリーニョの取引と結びついてきた。Martín Códaxは、この仕組みを支える中心的な協同組合の一つとして、ブドウ畑の所有者と大規模な商業ワイナリーをつないできた。月曜日に承認された拡張計画は、生産の拡大に合わせてワインの貯蔵、加工、販売に使えるスペースを増やし、このモデルを強化することを目指す。